

| 生 | を | 見 | つ | め | て |

サバイバーからのメッセージ



脳卒中は再発しやすい病気と言われています。なぜなら、その下地となる病気や生活習慣を見直さない限り、そのリスクが常に身近にあるからです。

二度の脳出血を経験した重藤幸人さん(58歳)もその一人。「主治医の先生からは再発すると最初の時より重い後遺症が残ることがあるよと言われていたのに、安直に考え

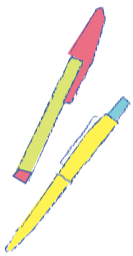
に右半身が動かなくなりまして」。すぐに病院に向かい、幸いにも2カ月の点滴治療と1カ月のリハビリで、元の生活に戻ることができました。血圧が高く、食生活が乱れていたことは自覚していたそうですが、まだ若く、後遺症もなかったことからその後の生活を改めることはなかったそうです。

「すぐにでも仕事を再開したかったし、自分の障害を認めたくなかったから、最初はリハビリセンターに通うことが嫌で仕方ありませんでした」と振り返ります。

退院後、重藤さんが通ったかがわ総合リハビリテーションセンターの成人支援施設は、さまざまな障害を持った人たちが就労や社会復帰を目指す施設です。重藤さんはパソコン操作等の就労に必要な訓練を受け、就職しました。「ここに来なければ知り合うことのなかった若い人たちと交流できたことは、とてもいい経験になりました」。

重藤さんは1年間のリハビリ後、県内のホームセンターに就職。広い店内は移動が多

二度の脳出血を経験 失うものより 得たものが大きい



重藤 幸人さん(高松市)

ていました」と振り返ります。重藤さんは大分県出身。地元の電波高校を卒業した後、自分の技術が役に立つならと、大阪、山口と全国各地で仕事をしてきました。

11年前、47歳で最初の脳出血を起こしたのは、福岡で自動販売機設置の仕事をしてた時。「トラックの重いキャビンを持ち上げたら、急

負担が大きい 二度目の脳出血

二度目の脳出血は今から2年前、縁あって香川で仕事をしてた時のことでした。前回のような力仕事ではありませんでしたが、言葉が出ずに右半身が動かない前回と同じ症状に襲われました。今回も点滴治療で出血部分は改善しましたが、右手が動

く、個別に対応することはとても疲れるようで、「体が辛いときには、すぐに同僚の手を借りています」。病気を理解し快く対応してくれる仲間には「感謝の気持ちしかない。いつか何かの形で恩返しをしたい」と話します。

二度の病気を経て、「肉体的にも精神的にも強くなった」と重藤さん。「行き当たりばったりだった」とご自分の人生を振り返り、今ではどんな細かな事でもノートに書き取り、日々反省と前進を繰り返しているそうです。

服薬治療は今後も続き、食事は野菜中心のメニューに切り替えて毎日自転車通っているのも、健康管理の一環。「人の手を借りることも大切だけど、頼るばかりはだめ。自分でいい方向に持って行く努力が必要」と重藤さん。部屋には「感謝」という言葉がたくさん並んでいました。

感謝の気持ちで 日々反省と前進

重藤さんは1年間のリハビリ後、県内のホームセンターに就職。広い店内は移動が多



「自分の置かれた環境は偶然ではなく、必然」と重藤さん。「病気は嫌だけど人間関係が豊かになり、交流の場が広がったことに感謝しています」。